

2024年度

シラバス

理学療法学科 第2学年



学校法人 協栄学園
伊勢志摩リハビリテーション専門学校

理学療法学科 第2学年 目次

| | |
|----------------|---------|
| 機能解剖学 (Ⅰ) | 1 |
| 機能解剖学 (Ⅱ) | 2 |
| 機能解剖学 (Ⅲ) | 3 |
| 体表解剖学 (Ⅱ) | 4 ~ 5 |
| 生理学 (Ⅱ) | 6 |
| 臨床心理学 | 7 |
| 整形外科 | 8 ~ 9 |
| 総合内科学 | 10 ~ 12 |
| 精神疾患とリハビリテーション | 13 |
| 多職種連携論 | 14 ~ 15 |
| 障がい者スポーツ論 | 16 |
| 保健医療福祉制度論 | 17 |
| 理学療法評価学 (Ⅰ) | 18 |
| 検査・測定法 (Ⅰ) | 19 ~ 21 |
| 運動療法学 | 22 |
| 物理療法学 | 23 ~ 24 |
| 日常生活活動学 | 25 ~ 26 |
| 見学実習 | 27 |
| 評価実習 | 28 |

【科目名】 機能解剖学(Ⅰ)

| | | | | | | | | | |
|-------|--|----|--------|-------------|-------|-------------|------|------|----|
| 学年 | 2年 | 学科 | 理学療法学科 | 単位数 | 2単位 | 時間数 | 30時間 | 履修時期 | 前期 |
| 担当教員名 | 沖 和恵 | | | コアカリキュラムコード | | C-1-3 C-2-1 | | | |
| 基本情報 | 専任教員 | | | 資格 | 理学療法士 | | 科目区分 | 専門基礎 | |
| 実務経験 | 理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則第二条に定める教員要件を満たす。10年以上の臨床経験(介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーション等)を活かし、講義を行っている。 | | | | | | | | |

| | |
|--------------------------|---|
| 授業概要 (一般目標:GIO) | ・上肢の運動器の機能と構造を理解し、各関節の運動学的特徴を学ぶ。 |
| 学生が達成すべき目標 (到達目標:SBO) | ・上肢の関節運動やそれに関わる筋・神経などについて機能解剖学的な観点から説明できる。 ・上肢に関わる各種疾患による影響など分析・治療するための基礎を学習し、応用できる。 |
| 人間総合科学大学 単位認定科目 | 自律神経生理学(T)・(N) 運動生理学(T)・(N) |

| 回 | 授業内容 | 担当 |
|----|------------------------|----|
| 1 | オリエンテーション、講義の進め方 | 沖 |
| 2 | 肩甲帯の解剖 | |
| 3 | 肩甲帯の機能解剖 | |
| 4 | 肩関節周囲の解剖 | |
| 5 | 肩関節周囲の機能解剖:骨と関節運動 | |
| 6 | 肩関節周囲の機能解剖:関節運動と筋の作用 | |
| 7 | 肘関節の解剖 肘関節の機能解剖:骨と関節運動 | |
| 8 | 肘関節の機能解剖:関節運動と筋の作用 | |
| 9 | 手関節の解剖 手関節の機能解剖:骨と関節運動 | |
| 10 | 手関節の機能解剖:関節運動と筋の作用 | |
| 11 | 手指の解剖学 手指の機能解剖:骨と関節運動 | |
| 12 | 手指の機能解剖:関節運動と筋の作用 | |
| 13 | 演習① | |
| 14 | 演習② | |
| 15 | まとめ | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業形態 | ■ 講義 ■ 演習 □ 実技 ■ グループワーク □ その他 |
| 学習資源 | ■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD ■ 模型 □ その他 |
| 成績評価 (方法・基準) | 方法: ■ 筆記試験 □ 実技試験 ■ 小テスト ■ レポート □ 発表 ■ その他 基準: 筆記試験80% + 小テスト10% + レポート10% → 60点以上を合格とする。授業態度など総合的に評価する。 |
| 教科書 | 「エッセンシャル・キネシオロジー」(南江堂) 「PT・OTのための運動学テキスト」(金原出版) |
| 参考書 | 「基礎運動学」(医歯薬出版) 「筋骨格系のキネシオロジー」(医歯薬出版) |
| 準備学習 (学習へのアドバイス) | 予習: 各回の授業内容に準じた部分を教科書などで予習しておくが良い。 復習: 小テストを適宜実施する。教科書、配布資料、振り返りシートなどを使用し、内容を確認する。 |

【科目名】 機能解剖学(Ⅱ)

| | | | | | | | | | |
|-------|---|----|--------|-------------|-------|-------------|------|------|----|
| 学年 | 2年 | 学科 | 理学療法学科 | 単位数 | 2単位 | 時間数 | 30時間 | 履修時期 | 前期 |
| 担当教員名 | 熊谷 旬一郎 | | | コアカリキュラムコード | | C-1-3 C-2-1 | | | |
| 基本情報 | 専任教員 | | | 資格 | 理学療法士 | | 科目区分 | 専門基礎 | |
| 実務経験 | 理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則第二条に定める教員要件を満たす。10年以上の臨床経験(一般病院、整形外科クリニック、通所リハビリテーション等)を活かし、講義を行っている。 | | | | | | | | |

| | |
|--------------------------|---|
| 授業概要 (一般目標:GIO) | ・下肢の運動器の機能と構造を理解し、各関節の運動学的特徴を学ぶ。 |
| 学生が達成すべき目標 (到達目標:SBO) | ・下肢の関節運動やそれに関わる筋・神経などについて機能解剖学的な観点から説明できる。 ・下肢に関わる各種疾患による影響など分析・治療するための基礎を学習し、応用できる。 |
| 人間総合科学大学 単位認定科目 | 自律神経生理学(T)・(N) 運動生理学(T)・(N) |

| 回 | 授業内容 | 担当 |
|----|-------------------------------|----|
| 1 | オリエンテーション、下肢の役割、股関節 ①: 骨と関節運動 | 熊谷 |
| 2 | 股関節 ②: 靭帯と関節運動、軟部組織 | |
| 3 | 股関節 ③: 筋の作用と関節運動 | |
| 4 | 膝関節 ①: 脛骨大腿関節、膝蓋大腿関節 | |
| 5 | 膝関節 ②: 靭帯、筋の作用と関節運動 | |
| 6 | 股関節・膝関節 演習 | |
| 7 | 足関節 ①: 骨と関節運動、靭帯 | |
| 8 | 足関節 ②: 筋の作用と関節運動、アーチと変形 | |
| 9 | 歩行 ①: 歩行周期、関連用語 | |
| 10 | 歩行 ②: 関節運動、筋活動 | |
| 11 | 歩行 ③: 力学、異常歩行 | |
| 12 | 足関節・歩行 演習 | |
| 13 | 機能解剖学 下肢 実習 ① | |
| 14 | 機能解剖学 下肢 実習 ② | |
| 15 | 機能解剖学 下肢 実習 ③ | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業形態 | ■ 講義 ■ 演習 □ 実技 ■ グループワーク □ その他 |
| 学習資源 | ■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD ■ 模型 □ その他 |
| 成績評価 (方法・基準) | 方法: ■ 筆記試験 □ 実技試験 ■ 小テスト ■ レポート □ 発表 ■ その他 基準: 筆記試験80% + 小テスト10% + レポート10% → 60点以上を合格とする。授業態度など総合的に評価する。 |
| 教科書 | 「エッセンシャル・キネシオロジー」(南江堂) 「PT・OTのための運動学テキスト」(金原出版) |
| 参考書 | 「基礎運動学」(医歯薬出版) 「筋骨格系のキネシオロジー」(医歯薬出版) |
| 準備学習 (学習へのアドバイス) | 予習: 各回の授業内容に準じた部分を教科書などで予習しておくが良い。 復習: 小テストを適宜実施する。教科書、配布資料、振り返りシートなどを使用し、内容を確認する。 |

【科目名】 機能解剖学(Ⅲ)

| | | | | | | | | | |
|-------|---|----|--------|-------------|-------|-------------|------|------|----|
| 学年 | 2年 | 学科 | 理学療法学科 | 単位数 | 2単位 | 時間数 | 30時間 | 履修時期 | 前期 |
| 担当教員名 | 林 修平 | | | コアカリキュラムコード | | C-1-3 C-2-1 | | | |
| 基本情報 | 専任教員 | | | 資格 | 理学療法士 | | 科目区分 | 専門基礎 | |
| 実務経験 | 理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則第二条に定める教員要件を満たす。健康科学専攻修士課程を修了している。10年以上の臨床経験(通所・訪問リハビリテーション等)を活かし、講義を行っている。 | | | | | | | | |

| | |
|---------------------------|---|
| 授業概要 (一般目標: GIO) | ・体幹の運動器の機能と構造を理解し、各関節の運動学的特徴を学ぶ。 |
| 学生が達成すべき目標 (到達目標: SBO) | ・体幹の関節運動やそれに関わる筋・神経などについて機能解剖学的な観点から説明できる。 ・体幹に関わる各種疾患による影響など分析・治療するための基礎を学習し、応用できる。 |
| 人間総合科学大学 単位認定科目 | 自律神経生理学(T)・(N) 運動生理学(T)・(N) |

| 回 | 授業内容 | 担当 |
|----|-------------------------|----|
| 1 | オリエンテーション、体幹を構成する骨格 | 林 |
| 2 | 脊柱の構造と運動学(頸椎の機能解剖) | |
| 3 | 脊柱の構造と運動学(胸椎の機能解剖) | |
| 4 | 脊柱の構造と運動学(腰・仙椎の機能解剖) | |
| 5 | 脊柱の筋と運動 ① | |
| 6 | 脊柱の筋と運動 ② | |
| 7 | 頭部・顔面の機能解剖(咀嚼・顔面筋・眼球運動) | |
| 8 | 胸郭の機能解剖 ①(呼吸による胸郭の動き) | |
| 9 | 胸郭の機能解剖 ②(呼吸による胸郭の動き) | |
| 10 | 姿勢とアライメント ① | |
| 11 | 姿勢とアライメント ② | |
| 12 | 演習①(姿勢観察・分析) | |
| 13 | 演習②(姿勢観察・分析) | |
| 14 | 演習レポート作成 | |
| 15 | まとめ | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業形態 | ■ 講義 ■ 演習 □ 実技 ■ グループワーク □ その他 |
| 学習資源 | ■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD ■ 模型 ■ その他 |
| 成績評価 (方法・基準) | 方法: ■ 筆記試験 □ 実技試験 ■ 小テスト ■ レポート □ 発表 ■ その他 基準: 筆記試験80% + 小テスト10% + レポート10% → 60点以上を合格とする。授業態度など総合的に評価する。 |
| 教科書 | 「エッセンシャル・キネシオロジー」(南江堂) |
| 参考書 | 「基礎運動学」(医歯薬出版) 「筋骨格系のキネシオロジー」(医歯薬出版) |
| 準備学習 (学習へのアドバイス) | 予習: 各回の授業内容に準じた部分を教科書などで予習しておくこと良い。 復習: 小テストを5回実施する。教科書、配布資料などを使用し、内容を確認する。 |

【科目名】 体表解剖学(Ⅱ)

| | | | | | | | | | |
|-------|---|----|--------|-------------|-------|-------|------|------|----|
| 学年 | 2年 | 学科 | 理学療法学科 | 単位数 | 3単位 | 時間数 | 45時間 | 履修時期 | 前期 |
| 担当教員名 | 山口 倫直 | | | コアカリキュラムコード | | C-1-3 | | | |
| 基本情報 | 専任教員 | | | 資格 | 理学療法士 | | 科目区分 | 専門基礎 | |
| 実務経験 | 理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則第二条に定める教員要件を満たす。保健衛生学修士課程を修了している。20年以上の臨床経験(一般病院、整形外科クリニック、通所リハビリテーション等)を活かし、講義と実技を行っている。 | | | | | | | | |

| | |
|---------------------------|---|
| 授業概要 (一般目標: GIO) | ・筋の構造を理解し、体表より触察する技術を習得する。 |
| 学生が達成すべき目標 (到達目標: SBO) | ・骨、筋、関節の構造を理解し、体表より触察できる。 ・上肢、下肢、体幹の主な「筋」の触診を実施できる。 ・評価(検査・測定)や治療に生かせる技術、考え方を習得し、応用できる。 |
| 人間総合科学大学 単位認定科目 | 該当科目なし。 |

| 回 | 授業内容 | 担当 |
|----|-----------------------------|----|
| 1 | オリエンテーション、肩甲骨・肩甲帯に関わる筋の触診 ① | 山口 |
| 2 | 肩甲骨・肩甲帯に関わる筋の触診 ② | |
| 3 | 肩関節に関わる筋の触診 ① | |
| 4 | 肩関節に関わる筋の触診 ② | |
| 5 | 肘関節に関わる筋の触診 ① | |
| 6 | 肘関節に関わる筋の触診 ② | |
| 7 | 手関節および手指に関わる筋の触診 ① | |
| 8 | 手関節および手指に関わる筋の触診 ② | |
| 9 | 上肢のまとめ(筆記試験 ①) | |
| 10 | 上肢のまとめ | |
| 11 | 上肢実技テスト | |
| 12 | 上肢実技テスト | |
| 13 | 骨盤・股関節に関わる筋の触診 ① | |
| 14 | 骨盤・股関節に関わる筋の触診 ② | |
| 15 | 膝関節に関わる筋の触診 ① | |
| 16 | 膝関節に関わる筋の触診 ② | |
| 17 | 足関節・足部に関わる筋の触診 ① | |
| 18 | 足関節・足部に関わる筋の触診 ② | |
| 19 | 体幹に関わる筋の触診 ① | |
| 20 | 体幹に関わる筋の触診 ② | |
| 21 | 下肢のまとめ(筆記試験 ②) | |
| 22 | 下肢のまとめ | |
| 23 | 下肢実技テスト | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業形態 | ■ 講義 ■ 演習 ■ 実技 □ グループワーク □ その他 |
| 学習資源 | ■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD ■ 模型 □ その他 |
| 成績評価 (方法・基準) | 方法：□ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 小テスト □ レポート □ 発表 □ その他 基準：部位別に2回実施する。→2回の合算で評価する。(60点以上を合格とする。) |
| 教科書 | 「運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢」(MEDICAL VIEW) 「運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢・体幹」(MEDICAL VIEW) |
| 参考書 | 「骨格筋の形と触察法」(大峰閣) 「プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論/運動器」(医学書院) |
| 準備学習 (学習へのアドバイス) | 実技が出来る服装(短パン・Tシャツ)を用意すること。 予習：各回の授業内容に準じた部分を教科書などで予習しておくが良い。 復習：教科書、配布資料などを使用し、内容を確認する。 |

【科目名】 生理学(Ⅱ)

| | | | | | | | | | |
|-------|--|----|--------|-------------|-------|-----------------|------|------|----|
| 学年 | 2年 | 学科 | 理学療法学科 | 単位数 | 2単位 | 時間数 | 30時間 | 履修時期 | 前期 |
| 担当教員名 | 櫻本 新 | | | コアカリキュラムコード | | C-1 C-2-3 C-2-4 | | | |
| 基本情報 | 専任教員 | | | 資格 | 理学療法士 | | 科目区分 | 専門基礎 | |
| 実務経験 | 理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則第二条に定める教員要件を満たす。医科学専攻修士課程を修了している。10年以上の臨床経験(整形外科クリニック、通所・訪問リハビリテーション等)を活かし、講義を行っている。 | | | | | | | | |

| | |
|--------------------------|---|
| 授業概要 (一般目標:GIO) | ・1年生で学習した解剖生理学の知識をベースに、理学療法士に必要な循環器系、呼吸器系、代謝・恒常性、筋系・神経系等の病態生理について学習する。 |
| 学生が達成すべき目標 (到達目標:SBO) | ・健康体のメカニズムや疾病に対する事柄を説明できる。 ・生理学の知識と循環器系疾患、呼吸器系疾患、代謝・恒常性疾患、筋系・神経疾患の関連性や症状について説明できる。 |
| 人間総合科学大学 単位認定科目 | 自律神経生理学T・S、運動生理学T・S |

| 回 | 授業内容 | 担当 |
|----|--------------------------------|----|
| 1 | 体液の正常と異常(浮腫・脱水) | 櫻本 |
| 2 | 循環器系の解剖生理 | |
| 3 | 循環器系の異常(高血圧・心不全) | |
| 4 | 循環器系の異常(不整脈) | |
| 5 | 呼吸器系の解剖生理 | |
| 6 | 呼吸器系の疾患と病態生理 | |
| 7 | 泌尿器系の解剖生理と泌尿器系の異常(腎不全)とその症状 | |
| 8 | 代謝性疾患の病態生理(糖尿病) | |
| 9 | 骨関節の異常(拘縮) | |
| 10 | 神経系・筋系の病態把握につながる解剖生理 | |
| 11 | 筋系に関連する症状・病態生理(筋力低下・筋萎縮) | |
| 12 | 神経系に関連する症状・病態生理①(運動麻痺・筋緊張) | |
| 13 | 神経系に関連する症状・病態生理②(協調性・運動失調) | |
| 14 | 神経系に関連する症状・病態生理③(反射・姿勢反射・バランス) | |
| 15 | 神経系に関連する症状・病態生理④(感覚の異常・痛み) | |

| | |
|---------------------|--|
| 授業形態 | ■ 講義 □ 演習 □ 実技 ■ グループワーク □ その他 |
| 学習資源 | □ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD □ 模型 ■ その他 |
| 成績評価 (方法・基準) | 方法：■ 筆記試験 □ 実技試験 ■ 小テスト ■ レポート □ 発表 ■ その他 基準：筆記試験60点以上、小テスト、授業態度等含め総合的に評価する。 |
| 教科書 | 特に設けない。 |
| 参考書 | 「病気がみえるvol.7 脳・神経」(MEDIC MEDIA) 「病気がみえるvol.2 循環器」(MEDIC MEDIA) 「病気がみえるvol.4 呼吸器」(MEDIC MEDIA) 「病気がみえるvol.3 糖尿病・代謝・内分泌」(MEDIC MEDIA) |
| 準備学習 (学習へのアドバイス) | 予習：当該分野の解剖生理学の復習をしておくこと。 復習：小テストを適宜実施する。教科書、配布資料、振り返りシートなどを使用し、内容を確認する。 |

【科目名】 臨床心理学

| | | | | | | | | | |
|-------|-------|----|--------|-------------|-------|-----|------|------|----|
| 学年 | 2年 | 学科 | 理学療法学科 | 単位数 | 2単位 | 時間数 | 30時間 | 履修時期 | 後期 |
| 担当教員名 | 西山 浩哉 | | | コアカリキュラムコード | | D-5 | | | |
| 基本情報 | 非常勤講師 | | | 資格 | 臨床心理士 | | 科目区分 | 専門基礎 | |

| | |
|--------------------------|--|
| 授業概要 (一般目標:GIO) | ・心理学を中心とした知識や理論を用いて、こころの問題を抱えた人やその家族の理解と援助の方法を学び、実践する。臨床心理学に関する理論と実際を理解し、現場に生かせる知識を習得する。 |
| 学生が達成すべき目標 (到達目標:SBO) | ・臨床心理学に関する基礎的な理論を理解し、援助の実際を応用できる。 ・心理アセスメントの種類と内容を説明できる。 ・心理療法の種類と理論を説明できる。 |
| 人間総合科学大学 単位認定科目 | 臨床心理学実践(S) |

| 回 | 授業内容 | 担当 |
|----|---|----|
| 1 | 臨床心理学とは、援助の対象とプロセス | 西山 |
| 2 | 臨床心理学の領域、エビデンスベースアプローチ、ナラティブベースアプローチ | |
| 3 | DSM-5の概要、自閉症の分類の変遷 | |
| 4 | 事例：自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、学習障害 | |
| 5 | 事例：知的能力障害、情緒障害、不登校 | |
| 6 | 事例：いわゆる神経症、母性剥離症候群、虐待 | |
| 7 | 事例：心身症、摂食障害、ヒステリー、同一性障害など | |
| 8 | 事例：パーソナリティ障害、統合失調症、うつ病と双極性障害など | |
| 9 | フロイトの精神分析理論、ユングの分析的心理学、ロジャースの自己理論 | |
| 10 | マラーの分離個体化理論、ウインコットの対象関係論、エリクソンの心理・社会的発達理論 | |
| 11 | 心理アセスメント、発達検査と知能検査 | |
| 12 | 人格検査、投影法、その他の検査、心理検査の実際、クライエント中心療法 | |
| 13 | 精神分析療法、ユングの分析的心理学、遊戯療法、芸術療法 | |
| 14 | コラージュ実習 | |
| 15 | 森田療法、家族療法、行動療法、認知行動療法、自律訓練法、集団療法 | |

| | |
|---------------------|--|
| 授業形態 | ■ 講義 ■ 演習 □ 実技 □ グループワーク □ その他 |
| 学習資源 | ■ 教科書 ■ 講義資料 □ PC □ モニター(プロジェクター) □ DVD □ 模型 ■ その他 |
| 成績評価 (方法・基準) | 方法：■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 小テスト □ レポート □ 発表 □ その他 基準：筆記試験60点以上を合格とする。 |
| 教科書 | 「心とかかわる臨床心理 基礎・実際・方法」(ナカニシヤ出版) |
| 参考書 | 特に指定なし |
| 準備学習 (学習へのアドバイス) | 予習：各回の授業内容に準じた部分を教科書などで予習しておくが良い。 復習：教科書、配布資料などを使用し、内容を確認する。 |

【科目名】 整形外科学

| | | | | | | | | | |
|-------|-------|----|--------|-------------|-----|---------------------|----------|----------|----|
| 学年 | 2年 | 学科 | 理学療法学科 | 単位数 | 4単位 | 時間数 | 60時間 | 履修 時期 | 通年 |
| 担当教員名 | 信原 理生 | | | コアカリキュラムコード | | D-7 D-8 D-10 D-14-1 | | | |
| 基本情報 | 非常勤講師 | | | 資格 | 医師 | | 科目 区分 | 専門基礎 | |

| | |
|------------------------------|--|
| 授業概要 (一般目標:GIO) | ・骨関節障害を生じる主な疾患の病態、症状、疫学、予後、評価、一般的治療について学ぶ。また、痛みや末梢神経・筋の障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。 |
| 学生が達成 すべき目標 (到達目標:SBO) | ・骨関節障害を生じる主な疾患の病態、症状、疫学、予後、評価、一般的治療について述べるができる。 ・骨関節障害を生じる主な疾患を理解し、理学療法への展開について応用できる。 |
| 人間総合科学大学 単位認定科目 | 該当科目なし。 |

| 回 | 授業内容 | 担当 |
|----|-----------------------------|----|
| 1 | 総論 I 整形外科学の基礎知識 A 整形外科学について | 信原 |
| 2 | B 整形外科的診断学 ① | |
| 3 | B 整形外科的診断学 ② | |
| 4 | C 整形外科的治療法 ① | |
| 5 | C 整形外科的治療法 ② | |
| 6 | 各論 I 部位別の外傷と疾患 A 軟部組織損傷 ① | |
| 7 | A 軟部組織損傷 ② | |
| 8 | B 骨関節の損傷 ① | |
| 9 | B 骨関節の損傷 ② | |
| 10 | C 肩・上腕 | |
| 11 | D 肘・上腕前腕 | |
| 12 | E 手関節・手指 | |
| 13 | E 手関節・手指 上肢復習 | |
| 14 | F 股関節および大腿 ① | |
| 15 | F 股関節および大腿 ② | |
| 16 | G 膝関節および下腿 ① | |
| 17 | G 膝関節および下腿 ② | |
| 18 | H 足関節と足部 ① | |
| 19 | H 足関節と足部 ② I 脊椎・脊髄 ① | |
| 20 | I 脊椎・脊髄 ② | |
| 21 | J 骨盤 | |
| 22 | 各論 II 全身性の疾患 A 慢性関節疾患 | |
| 23 | B リウマチと類縁疾患 ① | |

| 回 | 授業内容 | 担当 |
|----|--------------------------------|----|
| 24 | B リウマチと類縁疾患 ② | 信原 |
| 25 | C 感染症 D 代謝・内分泌疾患 | |
| 26 | E ロコモティブシンドローム F 骨・軟部腫瘍 | |
| 27 | G 神経疾患・筋疾患 ① | |
| 28 | G 神経疾患・筋疾患 ② | |
| 29 | G 神経疾患・筋疾患 ③ H 骨系統疾患 ① | |
| 30 | H 骨系統疾患 ① I 骨壊死性疾患および骨端症、その他疾患 | |

| | |
|---------------------|--|
| 授業形態 | ■ 講義 ■ 演習 □ 実技 □ グループワーク □ その他 |
| 学習資源 | ■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD □ 模型 □ その他 |
| 成績評価 (方法・基準) | 方法：■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 小テスト □ レポート □ 発表 □ その他 基準：筆記試験60点以上を合格とする。 |
| 教科書 | 「整形外科学テキスト」(南江堂) 「病気がみえるvol.11 運動器・整形外科」(MEDIC MEDIA) |
| 参考書 | 特に指定なし。 |
| 準備学習 (学習へのアドバイス) | 予習：各回の授業内容に準じた部分を教科書などで予習しておくが良い。 復習：教科書、配布資料などを使用し、内容を確認する。 |

【科目名】 総合内科学

| | | | | | | | | | |
|----------------------|----|---|--------|-----|-------------|-----|---|------|----|
| 学年 | 2年 | 学科 | 理学療法学科 | 単位数 | 8単位 | 時間数 | 120時間 | 履修時期 | 通年 |
| 担当教員名 (基本情報 / 資格) | | 西岡 洋右 (非常勤講師 / 医師) 中川 十夢 (非常勤講師 / 医師) 信原 理生 (非常勤講師 / 医師) 吉岡 久美 (非常勤講師 / 理学療法士) | | | コアカリキュラムコード | | C-4-4 C-4-5 C-4-6 C-4-7 C-4-8 C-4-9 D-9 D-11 D-12 D-13 D-14 D-15 | | |
| | | | | | 科目区分 | | 専門基礎 | | |

| | |
|---------------------------|--|
| 授業概要 (一般目標: GIO) | <p>【内科】(1~20)</p> <ul style="list-style-type: none"> 内科系の障害を生じる主な疾患の病態、症状、疫学、予後、評価、一般的治療及び理学療法への展開について学ぶ。 <p>【小児】(21~30)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小児の障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。 <p>【神経内科】(31~60)</p> <ul style="list-style-type: none"> 中枢神経障害を生じる主な疾患の病態、症状、疫学、予後、評価、一般的治療及び理学療法への展開について学ぶ。 |
| 学生が達成すべき目標 (到達目標: SBO) | <p>【内科】(1~20)</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床医学の根幹としての内科学と、高齢社会の中で重要な課題となってきた老年学の概要を学習し、応用できる。 内科学とリハビリテーション医学との相関を理解し、説明できる。 <p>【小児】(21~30)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小児の障害を引き起こす一般的疾患について説明できる。 小児疾患の疫学、予後、病因、症候について説明できる。 <p>【神経内科】(31~60)</p> <ul style="list-style-type: none"> 神経内科、脳神経外科で扱う疾患の病態を説明することができる。 画像や動画により疾患や症状を視覚的に確認し、述べることができる。 脳血管障害のCT画像やMRI画像から考えられる障害像を述べるすることができる。 |
| 人間総合科学大学 単位認定科目 | 脳科学論(T)・(N)、病気の成り立ち(T)・(N)、高齢者のからだと健康(T) |

| 回 | 授業内容 | 担当 |
|----|-------------------|----|
| 1 | 内科学とは、内科的診断と治療の実際 | 西岡 |
| 2 | 症候学 | |
| 3 | 消化器疾患 ① | |
| 4 | 消化器疾患 ② | |
| 5 | 肝胆膵疾患 ① | |
| 6 | 肝胆膵疾患 ② | |
| 7 | 血液・造血器疾患 ① | |
| 8 | 血液・造血器疾患 ② | |
| 9 | アレルギー・膠原病・免疫不全 | |
| 10 | 感染症 | |
| 11 | 循環器総論、モニター心電図 | 中川 |
| 12 | 虚血性心疾患 | |
| 13 | 心不全総論・各論 | |

| 回 | 授業内容 | 担当 |
|----|--|----|
| 14 | 大動脈疾患、呼吸器総論 | 中川 |
| 15 | 呼吸器各論 かぜ～肺炎 | |
| 16 | 呼吸器各論 閉塞性肺疾患～肺塞栓 | |
| 17 | 糖尿病 | |
| 18 | 腎臓病総論 | |
| 19 | 腎臓病各論 | |
| 20 | 問題演習(循環器疾患・呼吸器疾患・糖尿病・腎臓疾患) | |
| 21 | 小児科学概論(正常発達段階・時期、小児の姿勢反射、発達スクリーニング検査なども含む) | 信原 |
| 22 | 小児疾患の検査、診断、治療 | |
| 23 | 新生児・未熟児疾患 ① | |
| 24 | 新生児・未熟児疾患 ② | |
| 25 | 先天異常と遺伝子病 ① | |
| 26 | 先天異常と遺伝子病 ② | |
| 27 | 神経・筋・骨系疾患 ① | |
| 28 | 神経・筋・骨系疾患 ② | |
| 29 | 神経・筋・骨系疾患 ③ | |
| 30 | 習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾患・虐待 | |
| 31 | 解剖と機能 | 吉岡 |
| 32 | 脳・神経系の解剖、機能局在について | |
| 33 | 神経学的診断 | |
| 34 | 意識障害・頭痛 | |
| 35 | 運動麻痺 | |
| 36 | 不随意運動、錐体外路徴候、失調症 | |
| 37 | 感覚障害 | |
| 38 | 高次脳機能障害 | |
| 39 | 高次脳機能障害(記憶) | |
| 40 | 注意障害、遂行機能障害 | |
| 41 | 構音障害、嚥下障害 | |
| 42 | 脳神経外科領域の疾患 | |
| 43 | 脳血管障害(脳出血、くも膜下出血) | |
| 44 | 脳血管障害(脳梗塞) | |
| 45 | 脳腫瘍、頭部外傷 | |

| 回 | 授業内容 | 担当 |
|----|----------------------|----|
| 46 | 脊髄疾患 | 吉岡 |
| 47 | 変性疾患(パーキンソン病) | |
| 48 | 変性疾患(SCD) | |
| 49 | 変性疾患(ALS) | |
| 50 | 脱髄疾患 | |
| 51 | 末梢神経障害 | |
| 52 | 筋疾患 | |
| 53 | 神経筋接合部疾患 | |
| 54 | 感染性疾患① | |
| 55 | 感染性疾患②、中毒・代謝性疾患① | |
| 56 | 中毒・代謝性疾患②、小児・先天性疾患 | |
| 57 | 認知症、機能性疾患(てんかん) | |
| 58 | 脳血管障害ケースワーク(グループワーク) | |
| 59 | 脳血管障害ケースワーク 発表 | |
| 60 | 症例検討 | |

| | |
|---------------------|--|
| 授業形態 | ■ 講義 □ 演習 □ 実技 ■ グループワーク □ その他 |
| 学習資源 | ■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD □ 模型 □ その他 |
| 成績評価 (方法・基準) | 方法：■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 小テスト □ レポート □ 発表 □ その他 基準：各講師の担当範囲で各々筆記試験を行う。→ 60点以上を合格とする。 最終評定は、各講師の担当比率で計算し、合算する。 |
| 教科書 | 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学」(医学書院) 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学」(医学書院) 「標準脳神経外科学」(医学書院) 「神経内科学テキスト」(南江堂) |
| 参考書 | 「病気がみえるvol.2 循環器」(MEDIC MEDIA) 「病気がみえるvol.4 呼吸器」(MEDIC MEDIA) 「病気がみえるvol.3 糖尿病・代謝・内分泌」(MEDIC MEDIA) 「病気がみえるvol.7 脳・神経」(MEDIC MEDIA) |
| 準備学習 (学習へのアドバイス) | 予習：授業内容に関する疾患の病態を教科書、参考書を読み頭に入れておくこと。 復習：授業で配布した資料、教科書、参考書をもとに各疾患について理解を深めておくこと。 |

【科目名】 精神疾患とリハビリテーション

| | | | | | | | | | |
|--------------------|----|---------------------------------|--------|-----|-------------|-----|------|------|----|
| 学年 | 2年 | 学科 | 理学療法学科 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 15時間 | 履修時期 | 前期 |
| 担当教員名 (基本情報/資格) | | (非常勤講師/医師) 林 修平 (専任教員/理学療法士) | | | コアカリキュラムコード | | D-6 | | |
| | | | | | 科目区分 | | 専門基礎 | | |

| | |
|--------------------------|--|
| 授業概要 (一般目標:GIO) | ・精神障害を引き起こす主な疾患の病因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。 |
| 学生が達成すべき目標 (到達目標:SBO) | ・精神医学の特色を身体医学との比較で学び、かつ協働領域との連携の重要性について説明できる。 ・精神障害および精神障害者に関する概念について説明できる。 |
| 人間総合科学大学 単位認定科目 | 心身医学(N) |

| 回 | 授業内容 | 担当 | |
|----|------------------|----|---|
| 1 | リハビリテーション医学 総論 ① | | |
| 2 | リハビリテーション医学 総論 ② | | |
| 3 | 脳血管障害 | | |
| 4 | 頭部外傷 | | |
| 5 | 認知症 | | |
| 6 | 神経変性疾患 | | |
| 7 | 精神障害 ① | | |
| 8 | 精神障害 ② | | |
| 9 | 国家試験対策 ① | | 林 |
| 10 | 国家試験対策 ② | | |
| 11 | 国家試験対策 ③ | | |
| 12 | 国家試験対策 ④ | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

| | |
|---------------------|--|
| 授業形態 | ■ 講義 □ 演習 □ 実技 □ グループワーク □ その他 |
| 学習資源 | ■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD □ 模型 □ その他 |
| 成績評価 (方法・基準) | 方法: ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 小テスト □ レポート □ 発表 □ その他 基準: 筆記試験60点以上を合格とする。 |
| 教科書 | 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学」(医学書院) |
| 参考書 | 「標準精神医学」(医学書院) |
| 準備学習 (学習へのアドバイス) | 予習: 各回の授業内容に準じた部分を教科書などで予習しておくが良い。 復習: 教科書、配布資料などを使用し、内容を確認する。 |

【科目名】 多職種連携論

| | | | | | | | | | |
|----------------------|----|---|--------|-----|-------------|-----|-------|------|----|
| 学年 | 2年 | 学科 | 理学療法学科 | 単位数 | 3単位 | 時間数 | 45時間 | 履修時期 | 通年 |
| 担当教員名 (基本情報 / 資格) | | 橋本 泉 (非常勤講師 / 看護師) 中川 美季 (非常勤講師 / 看護師) 木村 圭佑 (非常勤講師 / 理学療法士) 下村 益稔 (非常勤講師 / 理学療法士) 丹羽 潤子 (非常勤講師 / 作業療法士) 小浜 芽以 (非常勤講師 / 言語聴覚士) 専任教員 | | | コアカリキュラムコード | | D-3-4 | | |
| | | | | | 科目区分 | | 専門基礎 | | |

| | |
|---------------------------|---|
| 授業概要 (一般目標: GIO) | <ul style="list-style-type: none"> ・チーム医療・多職種連携について学び、理学療法士が果たす役割について学習する。 ・吸引、吸痰の基礎知識を習得し、実践を通じて学ぶことができる。 |
| 学生が達成すべき目標 (到達目標: SBO) | <ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーションチームについて説明できる。 ・チーム医療・多職種連携について説明できる。 ・吸引、吸痰の概要とリスクを説明できる。 ・模型を使用した吸引、吸痰操作を実施できる。 |
| 人間総合科学大学 単位認定科目 | 地域の福祉(T) |

| 回 | 授業内容 | 担当 |
|----|------------------------------|------|
| 1 | 看護師の業務と役割、理学療法士と看護師との連携 | 橋本 |
| 2 | 吸引・吸痰の技術について 講義 | 中川 |
| 3 | 吸引・吸痰 実習 | |
| 4 | 多職種連携の目的、コンピテンシー、多職種連携教育の必要性 | |
| 5 | 他の専門職の役割・理解、カンファレンスの目的・構造 | 木村 |
| 6 | チーム・チームビルディング、チームワークの基礎と理論 | |
| 7 | 多職種連携模擬カンファレンス - 同職種間での検討 - | |
| 8 | 多職種連携模擬カンファレンス - 多職種間での検討 - | |
| 9 | 総合事業における理学療法士の関わり ① | 下村 |
| 10 | 総合事業における理学療法士の関わり ② | |
| 11 | 作業療法士の役割と業務について ① | 丹羽 |
| 12 | 作業療法士の役割と業務について ② | |
| 13 | 言語聴覚士の役割と業務について ① | 小浜 |
| 14 | 言語聴覚士の役割と業務について ② | |
| 15 | 松阪看護専門学校 合同講義 事前学習 ① | 専任教員 |
| 16 | 松阪看護専門学校 合同講義 事前学習 ② | |
| 17 | 松阪看護専門学校 合同講義 事前学習 ③ | |
| 18 | 松阪看護専門学校 合同講義 事前学習 ④ | |
| 19 | 松阪看護専門学校 合同講義 事前学習 ⑤ | |

| 回 | 授業内容 | 担当 |
|----|----------------------|------|
| 20 | 松阪看護専門学校 合同講義 事前学習 ⑥ | 専任教員 |
| 21 | 松阪看護専門学校 合同講義 事前学習 ⑦ | |
| 22 | 松阪看護専門学校 合同講義 ① | |
| 23 | 松阪看護専門学校 合同講義 ② | |

| | |
|---------------------|--|
| 授業形態 | ■ 講義 ■ 演習 □ 実技 ■ グループワーク □ その他 |
| 学習資源 | ■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD □ 模型 □ その他 |
| 成績評価 (方法・基準) | 方法：■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 小テスト □ レポート □ 発表 □ その他 基準：筆記試験60点以上を合格とする。 |
| 教科書 | 「ラーニングシリーズ IP/保健・医療・福祉専門職の連携教育・実践 ③」(協同医書出版) |
| 参考書 | 特に指定なし。 |
| 準備学習 (学習へのアドバイス) | 演習課題やグループワークでは、積極的な姿勢を望む。 3、22・23は、松阪看護専門学校にて実施する。 |

【科目名】 障がい者スポーツ論

| | | | | | | | | | |
|--------------------|---|----|--------|-----|-----|-------------|-------|------|----|
| 学年 | 2年 | 学科 | 理学療法学科 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 15時間 | 履修時期 | 後期 |
| 担当教員名 (基本情報/資格) | 川喜田 宏 (非常勤講師 / パラスポーツ指導員:上級) 大川 進也 (非常勤講師 / 理学療法士 パラスポーツ指導員:上級) | | | | | コアカリキュラムコード | E-7-9 | | |
| | | | | | | 科目区分 | 専門基礎 | | |

| | |
|--------------------------|--|
| 授業概要 (一般目標:GIO) | <ul style="list-style-type: none"> 障がい者スポーツを介した地域活動や社会参加に理学療法士として関わることの意義を学ぶ。 競技を行う際に求められる身体機能を専門的視点で学び、評価できる。 |
| 学生が達成すべき目標 (到達目標:SBO) | <ul style="list-style-type: none"> 初級障害者スポーツ指導員としてスポーツ参加への動機付けと同時に運動療法への応用を考える力を身につける。 |
| 人間総合科学大学 単位認定科目 | 体育Ⅲ |

| 回 | 授業内容 | 担当 |
|---|--------------------------|-----|
| 1 | スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質 | 大川 |
| 2 | 障がい者スポーツの意義と理念 | |
| 3 | 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫 ① | |
| 4 | 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫 ② | |
| 5 | 安全管理 | |
| 6 | 各地域の障がい者スポーツ推進の取り組み | 川喜田 |
| 7 | 障がい者スポーツに関する諸施策 | |
| 8 | 全国障害者スポーツ大会の概要 | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他 |
| 学習資源 | <input checked="" type="checkbox"/> 教科書 <input checked="" type="checkbox"/> 講義資料 <input checked="" type="checkbox"/> PC <input checked="" type="checkbox"/> モニター(プロジェクター) <input type="checkbox"/> DVD <input type="checkbox"/> 模型 <input type="checkbox"/> その他 |
| 成績評価 (方法・基準) | 方法： <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input checked="" type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> その他 基準：レポート課題60点以上を合格とする。 |
| 教科書 | 「障がいのある人のスポーツ指導教本(初級・中級)」(ぎょうせい) 「全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付き)」(日本障がい者スポーツ協会) |
| 参考書 | 特に指定なし。 |
| 準備学習 (学習へのアドバイス) | 講義に加え、演習や実技を交えて行う。体育館にて実際のパラスポーツ(ボッチャ、車椅子バスケットなど)を体験する。 |

【科目名】 保健医療福祉制度論

| | | | | | | | | | |
|--------------------|--|----|--------|-----|-------------|-----|------|------|----|
| 学年 | 2年 | 学科 | 理学療法学科 | 単位数 | 2単位 | 時間数 | 30時間 | 履修時期 | 前期 |
| 担当教員名 (基本情報/資格) | 森 美由紀 (非常勤講師 / 社会福祉士) 岩田 潤史 (非常勤講師 / 社会福祉士) | | | | コアカリキュラムコード | | B-3 | | |
| | | | | | 科目区分 | | 専門基礎 | | |

| | |
|--------------------------|---|
| 授業概要 (一般目標:GIO) | ・公衆衛生活動の概略を理解し、地域・学校及び職域における保健活動の理解を通じて保健活動全般についての意義を理解する。社会保障制度について理解する。 |
| 学生が達成すべき目標 (到達目標:SBO) | ・保健・医療・福祉制度について説明できる。 ・社会のしくみ、日本の社会の様子、日本の制度の成り立ち(保健・医療・福祉に関して)と歴史について説明できる。 |
| 人間総合科学大学 単位認定科目 | 保健学(T) |

| 回 | 授業内容 | 担当 |
|----|---|----|
| 1 | 授業の進め方、制度論を学ぶ意義、生活とは？グループワーク | 森 |
| 2 | 家族とは？、地域とは？、社会の状況と変化 DVD視聴とグループワーク | |
| 3 | 地域共生社会の実現に向けた制度や政策 DVD視聴とグループワーク | |
| 4 | 社会保障の歴史 | 岩田 |
| 5 | 医療保険制度、医療施設、難病、精神保健 | |
| 6 | 年金保険の仕組み DVD視聴とグループワーク | 森 |
| 7 | 労働保険(雇用保険、労働者災害補償保険)、労働問題・背景(労働災害) | |
| 8 | 介護保険制度 ① 制度設立の背景～介護保険のサービスの種類、地域包括ケアシステムについて | 岩田 |
| 9 | 介護保険制度 ② 利用手続き、PTの活躍の場、国・都道府県・市町村の役割、福祉用具貸与・購入・住宅改修について | |
| 10 | 障害者保健福祉制度の動向(DVD視聴とグループワーク) | 森 |
| 11 | 利用者の尊厳を守る法制度(尊厳とは何か？、身体拘束、虐待の定義)DVD視聴とグループワーク | |
| 12 | 虐待防止に関するDVD視聴とグループワーク | |
| 13 | 貧困問題に関するDVD視聴とグループワーク | |
| 14 | 貧困問題の背景、生活保護制度の概要、生活を支える制度(生活困窮者自立支援制度、求職先支援制度、生活支援資金) | |
| 15 | 事例を使い課題や解決方法を考える → グループワーク、試験対策 | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業形態 | ■ 講義 ■ 演習 □ 実技 ■ グループワーク □ その他 |
| 学習資源 | ■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD □ 模型 □ その他 |
| 成績評価 (方法・基準) | 方法：■ 筆記試験 □ 実技試験 ■ 小テスト □ レポート □ 発表 ■ その他 基準：筆記試験60点以上、授業態度等を総合的に評価する。 |
| 教科書 | 「新・介護福祉士養成講座2 社会と制度の理解」(中央法規) |
| 参考書 | 「はじめての社会保障 福祉を学ぶ人へ」(有斐閣アルマ)「社会保障論」(ミネルヴァ書房) 「社会福祉学習双書」(社会福祉学習双書編集委員会) |
| 準備学習 (学習へのアドバイス) | 適宜グループワークや演習などを取り入れながら実施する。 |

【科目名】 理学療法評価学(Ⅰ)

| | | | | | | | | | |
|-------|--|----|--------|-------------|-------|-----------|------|------|----|
| 学年 | 2年 | 学科 | 理学療法学科 | 単位数 | 2単位 | 時間数 | 30時間 | 履修時期 | 後期 |
| 担当教員名 | 沖 和恵 | | | コアカリキュラムコード | | E-3 E-4-1 | | | |
| 基本情報 | 専任教員 | | | 資格 | 理学療法士 | | 科目区分 | 専門 | |
| 実務経験 | 理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則第二条に定める教員要件を満たす。10年以上の臨床経験(介護老人保健施設、通所・訪問リハビリテーション等)を活かし、講義を行っている。 | | | | | | | | |

| | |
|---------------------------|---|
| 授業概要 (一般目標: GIO) | ・理学療法における評価の目的を理解し、基本的な評価の方法、手技の選択、評価の記載方法を習得する。理学療法の基本技術(バイタルサイン)を確認できる。 |
| 学生が達成すべき目標 (到達目標: SBO) | ・理学療法評価の基本を基に、理学療法士としての各症例の治療に向けた評価の考え方を身につける。 |
| 人間総合科学大学 単位認定科目 | 該当科目なし。 |

| 回 | 授業内容 | 担当 |
|----|----------------------------|----|
| 1 | 医療事故 | 沖 |
| 2 | 感染対策 | |
| 3 | バイタルサイン ① | |
| 4 | バイタルサイン ② | |
| 5 | バイタルサイン・実技 | |
| 6 | 評価の基礎 ① | |
| 7 | 評価の基礎 ② | |
| 8 | 評価の実際 ① | |
| 9 | 評価の実際 ② | |
| 10 | カルテの書き方、振り返りノートの書き方 | |
| 11 | 臨床的思考シート・プランニング表、症例報告諸の書き方 | |
| 12 | 症例検討 ① | |
| 13 | 症例検討 ② | |
| 14 | 症例検討 ③ | |
| 15 | まとめ | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業形態 | ■ 講義 ■ 演習 ■ 実技 ■ グループワーク □ その他 |
| 学習資源 | ■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD □ 模型 □ その他 |
| 成績評価 (方法・基準) | 方法: ■ 筆記試験 □ 実技試験 ■ 小テスト □ レポート ■ 発表 ■ その他 基準: 授業態度や小テスト、提出物、筆記試験(60点以上)などで総合的に評価する。 |
| 教科書 | 「理学療法評価学」(金原出版) |
| 参考書 | 「リハビリテーション基礎評価学」(羊土社) 「理学療法ハンドブック」(協同医書出版) 必要な部分をコピーしてきてよい |
| 準備学習 (学習へのアドバイス) | 解剖学、生理学を習得したのものとして授業を進める。必ず教科書を読み予習、復習をすること。必要に応じて実技の練習をすること。提出物の期限厳守のこと。 |

【科目名】 検査・測定法（Ⅰ）

| | | | | | | | | | |
|--------------------|--|----|--------|-------------|-----|-------|-------|------|----|
| 学年 | 2年 | 学科 | 理学療法学科 | 単位数 | 4単位 | 時間数 | 120時間 | 履修時期 | 通年 |
| 担当教員名 (基本情報/資格) | 山本 剛生(専任教員/理学療法士) 松枝 佑典(専任教員/理学療法士) | | | コアカリキュラムコード | | E-4-1 | | | |
| | | | | 科目区分 | | 専門 | | | |
| 実務経験 | <p>・山本 理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則第二条に定める教員要件を満たす。20年以上の臨床経験(整形外科クリニック、通所リハビリテーション等)を活かし、講義と実技を行っている。</p> <p>・松枝 理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則第二条に定める教員要件を満たす。5年間の臨床経験(介護老人保健施設、訪問リハビリテーション等)を活かし、講義と実技を行っている。</p> | | | | | | | | |

| | |
|--------------------------|---|
| 授業概要 (一般目標:GIO) | ・理学療法における各検査・測定手技の意義・目的を理解し、実施方法を学ぶ。 |
| 学生が達成すべき目標 (到達目標:SBO) | ・理学療法における各種検査・測定法の意義・目的・種類を理解し、説明できる。 ・各種検査・測定法の実施・記録方法を習得し、応用できる。 |
| 人間総合科学大学 単位認定科目 | 該当科目なし。 |

| 回 | 授業内容 | 担当 |
|----|------------------|----|
| 1 | 検査測定総論① | 山本 |
| 2 | 検査測定総論② | |
| 3 | 反射検査：深部腱反射、病的反射① | |
| 4 | 反射検査：深部腱反射、病的反射② | |
| 5 | 片麻痺機能検査① | |
| 6 | 片麻痺機能検査② | |
| 7 | ROM総論① | |
| 8 | ROM総論② | |
| 9 | ROM実技下肢① | |
| 10 | ROM実技下肢② | |
| 11 | ROM実技下肢③ | |
| 12 | ROM実技上肢① | |
| 13 | ROM実技上肢② | |
| 14 | ROM実技上肢③ | |
| 15 | ROM実技上肢④ | |
| 16 | ROM実技演習 | |
| 17 | ROM実技手指その他 | |
| 18 | ROM肩甲帯体幹① | |
| 19 | ROM肩甲帯体幹② | |
| 20 | ROM肩甲帯体幹③ | |

| 回 | 授業内容 | 担当 | |
|----|------------|----|----|
| 21 | MMT総論① | 山本 | |
| 22 | 形態測定 | 松枝 | |
| 23 | ROM実技試験① | 山本 | |
| 24 | ROM実技試験② | | |
| 25 | 四肢長および周径① | 松枝 | |
| 26 | 四肢軽および周径② | | |
| 27 | MMT総論② | 山本 | |
| 28 | MMT下肢実技① | | |
| 29 | MMT下肢実技② | | |
| 30 | MMT下肢実技③ | | |
| 31 | MMT下肢実技④ | | |
| 32 | MMT下肢実技⑤ | | |
| 33 | MMT下肢実技⑥ | | |
| 34 | MMT頸部体幹実技① | | |
| 35 | MMT頸部体幹実技② | | |
| 36 | MMT上肢実技① | | |
| 37 | MMT上肢実技② | | |
| 38 | MMT上肢実技③ | | |
| 39 | MMT上肢実技④ | | |
| 40 | MMT上肢実技⑤ | | |
| 41 | MMT実技演習① | | |
| 42 | MMT実技演習② | | |
| 43 | 感覚検査① | | 松枝 |
| 44 | 感覚検査② | | |
| 45 | MMT実技試験① | | 山本 |
| 46 | MMT実技試験② | | |
| 47 | 痛みの評価 | 松枝 | |
| 48 | 協調性検査 | | |
| 49 | 高次脳機能検査① | | |
| 50 | 高次脳機能検査② | | |
| 51 | 筋緊張検査① | 山本 | |

| | | |
|----|----------|----|
| 52 | 筋緊張検査② | 山本 |
| 53 | 脳神経検査① | |
| 54 | 脳神経検査② | |
| 55 | 持久力検査 | 松枝 |
| 56 | その他の筋力評価 | 山本 |
| 57 | バランス検査① | |
| 58 | バランス検査② | |
| 59 | 姿勢評価 | |
| 60 | 国家試験対策 | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業形態 | ■ 講義 ■ 演習 ■ 実技 □ グループワーク □ その他 |
| 学習資源 | ■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD □ 模型 □ その他 |
| 成績評価 (方法・基準) | 方法：■ 筆記試験 ■ 実技試験 □ 小テスト □ レポート □ 発表 □ その他 基準：筆記試験と実技試験の結果により、総合的に評価する。60点以上を合格とする。 |
| 教科書 | 「理学療法評価学」(金原出版) 「新・徒手筋力検査法」(協同医書出版) |
| 参考書 | 特に指定なし。 |
| 準備学習 (学習へのアドバイス) | 予習：各回の授業内容に準じた部分を教科書などで予習しておくが良い。 復習：教科書、配布資料などを使用し、内容を確認する。実技練習を繰り返し行う。 |

【科目名】 運動療法学

| | | | | | | | | | |
|--------------------|----|--|--------|-----|-------------|-----|-------|------|----|
| 学年 | 2年 | 学科 | 理学療法学科 | 単位数 | 2単位 | 時間数 | 30時間 | 履修時期 | 前期 |
| 担当教員名 (基本情報/資格) | | 杉浦 令人(非常勤講師/理学療法士) 荒井 友章(非常勤講師/理学療法士) 土屋 裕規(非常勤講師/理学療法士) | | | コアカリキュラムコード | | E-5-5 | | |
| | | | | | 科目区分 | | 専門 | | |

| | |
|--------------------------|---|
| 授業概要 (一般目標:GIO) | ・運動療法の概念、目的、対象疾患とその病態を理解し、基本的な運動療法を学ぶ。 |
| 学生が達成すべき目標 (到達目標:SBO) | ・運動療法の基礎を、歴史、運動学、骨、関節、筋、神経、呼吸、循環、代謝、運動学習、発達、老化について学習し、説明できる。 ・解剖学・生理学・運動学等の基礎医学を中心に、それらの作用機序について説明できる。 |
| 人間総合科学大学 単位認定科目 | 該当科目なし。 |

| 回 | 授業内容 | 担当 |
|----|--|----|
| 1 | 運動療法の概念(運動療法の歴史、運動療法とは何か) | 杉浦 |
| 2 | 運動療法の基礎(関節の構造と運動①) | |
| 3 | 運動療法の基礎(関節の構造と運動②) | |
| 4 | 運動療法の基礎(筋と筋収縮) | |
| 5 | 運動療法の基礎(随意運動と運動制御の生理) | 荒井 |
| 6 | 運動療法の基礎(運動制御と運動学習) | |
| 7 | 運動療法の基礎(運動と呼吸・循環・代謝) | |
| 8 | 組織の病態生理と修復(運動器系) | |
| 9 | 組織の病態生理と修復(神経系) | 土屋 |
| 10 | 運動の種類 | 杉浦 |
| 11 | 基本的な運動療法(関節可動域運動) | |
| 12 | 基本的な運動療法(筋力増強運動) | |
| 13 | 基本的な運動療法(持久力増強運動) | |
| 14 | 基本的な運動療法(協調性運動、脳のシステム障害と運動療法、痛みに対する運動療法) | 土屋 |
| 15 | 発達と運動療法 | |

| | |
|---------------------|--|
| 授業形態 | ■ 講義 □ 演習 ■ 実技 □ グループワーク □ その他 |
| 学習資源 | ■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD ■ 模型 □ その他 |
| 成績評価 (方法・基準) | 方法: ■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 小テスト □ レポート □ 発表 □ その他 基準: 筆記試験60点以上を合格とする。 |
| 教科書 | 「標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論」(医学書院) |
| 参考書 | 特に指定なし。 |
| 準備学習 (学習へのアドバイス) | 予習: 各回の授業内容に準じた部分を教科書などで予習しておくが良い。 復習: 教科書、配布資料などを使用し、内容を確認する。 |

【科目名】 物理療法学

| | | | | | | | | | |
|-------|---|----|--------|-------------|-------|-------|------|------|----|
| 学年 | 2年 | 学科 | 理学療法学科 | 単位数 | 3単位 | 時間数 | 45時間 | 履修時期 | 通年 |
| 担当教員名 | 山本 剛生 | | | コアカリキュラムコード | | E-5-2 | | | |
| 基本情報 | 専任教員 | | | 資格 | 理学療法士 | | 科目区分 | 専門 | |
| 実務経験 | 理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則第二条に定める教員要件を満たす。20年以上の臨床経験（整形外科クリニック、通所リハビリテーション等）を活かし、講義と実技を行っている。 | | | | | | | | |

| | |
|---------------------------|---|
| 授業概要 (一般目標: GIO) | <ul style="list-style-type: none"> 物理療法機器の特徴、適応疾患、禁忌についての知識を習得する。 物理療法機器の実習を通じて、生体への作用を理解し、機器の操作方法を習得する。 |
| 学生が達成すべき目標 (到達目標: SBO) | <ul style="list-style-type: none"> 物理療法に関する基本的理論を理解し、説明できる。 物理療法機器の特徴・適応疾患・禁忌事項などを説明できる。 物理療法機器を実施・体験し、生体への作用の理解と安全に機器を操作することができる。 |
| 人間総合科学大学 単位認定科目 | 該当科目なし。 |

| 回 | 授業内容 | 担当 |
|----|----------------|----|
| 1 | 物理療法学 総論、リスク管理 | 山本 |
| 2 | 温熱療法① 講義 | |
| 3 | 温熱療法② 講義 | |
| 4 | 水治療法 講義 | |
| 5 | 寒冷療法 講義 | |
| 6 | マッサージ療法 講義・実技 | |
| 7 | 牽引療法 講義 | |
| 8 | 高周波療法 講義 | |
| 9 | 光線療法① 講義 | |
| 10 | 光線療法② 講義 | |
| 11 | 超音波療法 講義 | |
| 12 | 電気刺激療法① 講義 | |
| 13 | 電気刺激療法② 講義 | |
| 14 | 実習の進め方 | |
| 15 | 水治・寒冷療法 実習① | |
| 16 | 水治・寒冷療法 実習② | |
| 17 | 牽引療法 実習 | |
| 18 | 温熱療法 実習 | |
| 19 | 超音波療法 実習 | |
| 20 | 高周波療法・光線療法 実習 | |
| 21 | 電気刺激療法 実習 | |
| 22 | 実習レポートの作成① | |
| 23 | 実習レポートの作成② | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業形態 | ■ 講義 ■ 演習 ■ 実技 ■ グループワーク □ その他 |
| 学習資源 | ■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD □ 模型 ■ 各種機器 |
| 成績評価 (方法・基準) | 方法：■ 筆記試験 □ 実技試験 □ 小テスト ■ レポート □ 発表 ■ その他 基準：筆記試験70%、レポート課題30%で総合的に評価する。 |
| 教科書 | 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト「物理療法学・実習」(中山書店) |
| 参考書 | 「標準理学療法学 専門分野 物理療法学」(医学書院) 「エビデンスから身につける物理療法」(羊土社) |
| 準備学習 (学習へのアドバイス) | 講義では、1テーマごとに振り返り課題を出すので、講義内容の確認に使用すること。実習では、不適切な機器の使用により、事故が発生するので、講義での内容(禁忌・注意点など)事前に確認すること。 |

【科目名】 日常生活活動学

| | | | | | | | | | |
|-------|---|----|--------|-------------|-------|----------------------------------|------|------|----|
| 学年 | 2年 | 学科 | 理学療法学科 | 単位数 | 3単位 | 時間数 | 45時間 | 履修時期 | 通年 |
| 担当教員名 | 松枝 佑典 | | | コアカリキュラムコード | | C-2-3 C-2-6 E-4-1 E-5-3 E-5-6 | | | |
| 基本情報 | 専任教員 | | | 資格 | 理学療法士 | | 科目区分 | 専門 | |
| 実務経験 | 理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則第二条に定める教員要件を満たす。5年間の臨床経験(介護老人保健施設、訪問リハビリテーション等)を活かし、講義を行っている。 | | | | | | | | |

| | |
|---------------------------|---|
| 授業概要 (一般目標: GIO) | ・理学療法の対象となる各疾患の日常生活活動を、健常者の活動を分析することで理解し、評価方法、問題点の考え方を学ぶ。 |
| 学生が達成すべき目標 (到達目標: SBO) | ・ADLの役割・概念、各疾患に応じたADLの理解を深め、適切な評価・指導を実施できる。 ・生活における動作能力改善や自立生活に必要な生活支援機器、福祉用具の知識について説明できる。 |
| 人間総合科学大学 単位認定科目 | 該当科目なし。 |

| 回 | 授業内容 | 担当 |
|----|--------------------------|----|
| 1 | ADLの概念と範囲 | 松枝 |
| 2 | 日常生活の評価 | |
| 3 | Barthel Indexについて | |
| 4 | FIM ① 評価、採点方法、移乗 | |
| 5 | FIM ② 移動～排泄 | |
| 6 | FIM ③ トイレ動作～社会的交流 | |
| 7 | FIM ④ 問題解決～記憶 | |
| 8 | FIM ⑤ 国家試験との関連 | |
| 9 | 基本動作 | |
| 10 | 複合動作 | |
| 11 | 片麻痺 | |
| 12 | パーキンソン病、頭部外傷 | |
| 13 | 末梢神経損傷、関節リウマチ | |
| 14 | 切断、骨関節形態障害 | |
| 15 | 慢性腰痛症、糖尿病 | |
| 16 | 呼吸器障害、循環器障害 | |
| 17 | 国家試験対策 ① | |
| 18 | 国家試験対策 ②、まとめ | |
| 19 | リハビリ機器、福祉機器の概要、福祉機器の支給制度 | |
| 20 | 歩行補助具、車椅子 | |
| 21 | 歩行補助具、車椅子の使用体験 | |
| 22 | 基本動作訓練 | |
| 23 | ADL動作訓練 | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業形態 | ■ 講義 ■ 演習 ■ 実技 □ グループワーク □ その他 |
| 学習資源 | ■ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD □ 模型 ■ その他 |
| 成績評価 (方法・基準) | 方法：■ 筆記試験 □ 実技試験 ■ 小テスト □ レポート □ 発表 ■ その他 基準：筆記試験60点以上、小テスト・授業態度などを組み総合的に評価する。 |
| 教科書 | 「理学療法学テキストⅤ 日常生活活動(ADL)」(神陵文庫) |
| 参考書 | 「リハビリテーション基礎評価学」(羊土社) |
| 準備学習 (学習へのアドバイス) | 予習：各回の授業内容に準じた部分を教科書などで予習しておくが良い。 復習：教科書、配布資料などを使用し、内容を確認する。 |

【科目名】 見学実習

| | | | | | | | | | |
|-------|--|----|--------|-------------|-------|-------------|------|------|----|
| 学年 | 2年 | 学科 | 理学療法学科 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 45時間 | 履修時期 | 後期 |
| 担当教員名 | 林 修平(臨床実習担当) | | | コアカリキュラムコード | | F-1 F-2 F-3 | | | |
| 基本情報 | 専任教員 | | | 資格 | 理学療法士 | | 科目区分 | 専門 | |
| 実務経験 | 理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則第二条に定める教員要件を満たす。健康科学専攻修士課程を修了している。10年以上の臨床経験(通所・訪問リハビリテーション等)を活かし、実習前の準備や実習中の学生サポート、実習後の学習成果を評価する。 | | | | | | | | |

| | |
|--------------------------|----------|
| 授業概要 (一般目標:GIO) | 授業内容を参照。 |
| 学生が達成すべき目標 (到達目標:SBO) | 授業内容を参照。 |
| 人間総合科学大学 単位認定科目 | 該当科目なし。 |

| 回 | 授業内容 | 担当 |
|---|---|----|
| | 学外実習施設における見学実習。(1週間) 複数の実習施設(医療機関)にて少人数で実施する。 【 見学実習 目標 】 1) 多岐にわたる疾患及び各時期を対象とした施設を見学し、それぞれの理学療法士の関わりに触れる。 2) 臨床現場での理学療法士から患者との接し方を学ぶ。 3) 症例を実際に見学することで、学内で学んだ疾患の症状・障害像のイメージを強める。 | 林 |

| | |
|---------------------|---|
| 授業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他 |
| 学習資源 | <input type="checkbox"/> 教科書 <input checked="" type="checkbox"/> 講義資料 <input checked="" type="checkbox"/> PC <input checked="" type="checkbox"/> モニター(プロジェクター) <input type="checkbox"/> DVD <input type="checkbox"/> 模型 <input checked="" type="checkbox"/> その他 |
| 成績評価 (方法・基準) | 方法： <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 小テスト <input type="checkbox"/> レポート <input type="checkbox"/> 発表 <input checked="" type="checkbox"/> その他 基準：出席、実習報告書などで評価する。 |
| 教科書 | 特に指定なし。 |
| 参考書 | 「リハビリテーション基礎評価学」(羊土社) 「新・徒手筋力検査法」(協同医書出版) 「ベッドサイドの神経の診かた」(南山堂) |
| 準備学習 (学習へのアドバイス) | 「臨床実習学生の心得」を熟読し、実習に望むこと。 見学実習終了後は、面談を行いフィードバックを行う。 |

【科目名】 評価実習

| | | | | | | | | | |
|-------|--|----|--------|-------------|-------|---------------------|------|------|----|
| 学年 | 2年 | 学科 | 理学療法学科 | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 45時間 | 履修時期 | 後期 |
| 担当教員名 | 林 修平(臨床実習担当) | | | コアカリキュラムコード | | F-1 F-2 F-3 F-4 F-5 | | | |
| 基本情報 | 専任教員 | | | 資格 | 理学療法士 | | 科目区分 | 専門 | |
| 実務経験 | 理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則第二条に定める教員要件を満たす。健康科学専攻修士課程を修了している。10年以上の臨床経験(通所・訪問リハビリテーション等)を活かし、実習前の準備や実習中の学生サポート、実習後の学習成果を評価する。 | | | | | | | | |

| | |
|--------------------------|--|
| 授業概要 (一般目標:GIO) | ・臨床実習指導者の指導・監督の下、患者の状態等に関する評価を実施し、学習する。 |
| 学生が達成すべき目標 (到達目標:SBO) | ・検査測定を対象者に対し、実施できる。また、検査結果の関連性について説明できる。 ・臨床現場で実習指導者による指導・監督のもと、理学療法臨床思考のプロセスを学び、実施できる。 |
| 人間総合科学大学 単位認定科目 | 該当科目なし。 |

| 回 | 授業内容 | 担当 |
|---|---|----|
| | 伊勢志摩中央リハビリテーションセンターにて小グループごとに実施する。(半日:10回) | 林 |
| | 【評価実習 目標】 | |
| | 1) 職員、対象者に対して、社会人として相応しいコミュニケーション(適切な挨拶・言葉遣い)がとれる。 | |
| | 2) 理学療法士の業務内容、位置づけ(他部門との関わり)を把握する。 | |
| | 3) 対象者の全体像の把握について指導下で理解できる。 | |
| | 4) 検査測定を指導下で実施できる。 | |
| | ※ 検査測定の内容 徒手筋力検査法、関節可動域測定、形態測定、反射検査、感覚検査、筋緊張検査、協調性検査、片麻痺運動機能検査など | |
| | | |
| | | |
| | | |

| | |
|---------------------|---|
| 授業形態 | ■ 講義 ■ 演習 □ 実技 □ グループワーク □ その他 |
| 学習資源 | □ 教科書 ■ 講義資料 ■ PC ■ モニター(プロジェクター) □ DVD □ 模型 ■ その他 |
| 成績評価 (方法・基準) | 方法: □ 筆記試験 □ 実技試験 □ 小テスト □ レポート □ 発表 ■ その他 基準: 出席、実習報告書などで評価する。 |
| 教科書 | 特に指定なし。 |
| 参考書 | 「リハビリテーション基礎評価学」(羊土社) 「新・徒手筋力検査法」(協同医書出版社) 「ベッドサイドの神経の診かた」(南山堂) 「PT・OTのためのOSCE」(金原出版) 「理学療法ハンドブック1~4巻」(協同医書出版社) |
| 準備学習 (学習へのアドバイス) | 「臨床実習学生の心得」を熟読し、実習に望むこと。 実習終了後、個別面談を行いフィードバックを行う。 |

